

会長挨拶

全日本中学校長会会長 直田 益 明



本日、第六九回全日本中学校長会総会の開催にあたり、文部科学大臣代理、文部科学省大臣官房審議官 白間竜一郎様、全国都道府県教育委員会連合会会長代理 事務局長 鈴木正一様をはじめ、教育関係団体の代表の皆様、全日中歴代会長及び理事の皆様、関係機関の皆様など多数の御来賓の御臨席を賜りましたことに、心から厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、全国から御参会の会員の皆様、新年度が始まってから早二か月が経とうとしております。全日中は、この総会をもって平成三十年度の諸活動が実質的に始まります。今年度から新たに会員になられた皆様もいらっしゃると思います。皆様を歓迎いたしますとともに、是非、全国の中学校教育の充実・発展に向けて、お力添えをよろしくお願いいたします。

さて私からは、昨年度の全日中の取組等について要点をお話しし、開会の挨拶に変えさせていただきます。まず一点目でございますが、昨年は中学校教育七〇年の節目の年ということで、十月十九日、二十日の二日間に行われ、東京国際フォーラムにおきまして全国から約三、八〇〇名の皆様をお迎えして、東京都中学校長会の皆様と協力しながら「中学校教育七〇年記念第六八回全日本中学校長会東京大会」を開催することができました。

一日目の午前中に挙行しました「中学校教育七〇年記念式典」は、厳粛な雰囲気の中で、全日本中学校長会にとつて大変意義深い式となったと思います。皇太子同妃両殿下の御台臨を仰ぎ、皇太子殿下からお言葉を賜るという栄誉を授かるとともに、参議院議長、文部科学大臣からも大変温かいお言葉をいただき、私たちの背中を力強く押し

ていただきました。

私たちは、このことをしっかりと心に刻み、期待に応えていかなければならないと強く感じました。その後、研究大会においても、各地区から発表をしていただくとともに、文部科学省からの説明や大村智先生の御講演をいただきました。これらの内容を通して多くの示唆を得ることができたと考えております。これも皆様の御支援・御協力の賜であると深く感謝申し上げます。

二点目は、国の動きへの対応です。昨年三月に、文部科学省から新学習指導要領が告示されました。三年後からの全面実施に向けて、本年度から移行措置も始まっておりますが、新学習指導要領の理念の実現に向けて、今まで以上に様々な工夫が必要となってまいります。また、昨年度は「一学校における働き方改革」や「部活動の在り方」も大きな話題となりました。

この一年間、これらのことにつきまして中央教育審議会・初等中等教育分科会等において、中学校教育振興の立場から意見を述べてまいりました。また、学校における働き方改革については、文部科学省などに意見を表明するとともに、部活動の在り方についてはスポーツ庁にも意見を申し上げてきたところです。今後も、全日中は中学校教育の現状を踏まえた意見を、しっかりと述べていくことが大切であると考えております。

三点目は、「全日中教育ビジョン」の推進です。

全日本中学校長会は、平成二十一年十月に「全日中教育ビジョン 学校からの教育改革」を提示・公表しました。この教育ビジョンは、行政主導のいわゆる上からの改革でなく、教育の実践的専門家にして、学校の最高責任者である校長が、自らの明確な改革ビジョンをもって積極的に学校からの教育改革に迫ろうとするものです。昨年度も、理事会が開催されることに教育ビジョンに示された「10の提言」を基に、各地区の学校や校長会における取組、それらに対する成果や課題等の情報交換を行ってまいりました。

昨日の理事会におきましては、新学習指導要領の全面実施に向けて、教育ビジョンの新たな改訂作業に取り組みしていくことも、御承認いただいたところであります。「有言実行」の行動理念の下に学校からの教育改革を自ら進める全日中として、教育ビジョンの「10の提言」を中心として、全国の皆様と一緒に推進してまいりたいと考えております。結びに、これまでの全日本中学校長会の活動に御理解・御協力をいただきました全日中役員の皆様をはじめ全国の会員の皆様、全日中に対して全面的な御支援をいただいております文部科学省の皆様、各都道府県教育委員会の皆様、関係団体の皆様、そして全日中OBの皆様に変更して感謝を申し上げます、開会の挨拶とさせていただきます。本日から二日間、どうぞよろしくお願いいたします。